建都1200年

美しいまちで・美しいものをつくる

に向かって

京デ協

京都デザイン関連団体協議会

目次

建都千二百年に向かって

美しいまちで・美しいものをつくる

京デ協に期待する――

大阪通商産業局通商部長　村上浩一
京都府知事　荒巻禎一
京都市長　今川正彦
京都商工会議所会頭　塚本幸一
(財)平安建都千二百年記念協会会長　桑原武夫

2

京デ協とは――

京都デザイン関連団体協議会議長　柴田献一

4

座談会　建都千二百年へのメッセージ――

6

プロフィール「京デ協」――

16

●インフォメーション――

29

●第七回　京都デザイン会議報告――

32

京デ協に期待する

大阪通商産業局
通商部長　村上浩一

京都デザイン関連団体協議会は、現在、京都のデザイン関連十一団体で結成されており、二十一世紀に向って、世界に誇りうる豊かな社会の具現化のため連帯することを目的として昨年五月発足され、早や一年が過ぎました。その間、これまで各構成団体の共催により毎年開催されてきた「京都デザイン会議」を協議会として主催され、また、通商産業省が推進している中小企業デザイン高度化政策の一つである中小企業デザイン国際化振興事業の一環として本年十一月開催される「'87国際テキスタイルデザインフェア」の共催者としても現在活発に活動されております。

近年、我が国の企業経営を巡る環境は、国民ニーズの多様化、技術・情報化の進展並びに急激な円高下での国際化の進展など急速に変化しています。この様な内外の環境下において、企業経営は創造性の発揮を一層求められておりますことから、デザインの重要性に対する認識も深まっており、各企業においてはデザインを基軸とした経営戦略の導入やデザイン開発力の向上のための活動を展開しているところです。

通商産業省におきましても、デザイン向上が我が国産業の健全な発展に資するばかりでなく、国民生活の質的向上を併せて実現する有力な手段であることを認識し、中小企業デザイン高度化政策の推進など各種デザイン施策を講じているところです。

このような状況下、貴協議会におかれましては七年後に実施される平安建都千二百年記念事業にむけて、積極的な活動を展開されているところです。今後も、貴協議会がより一層デザインの社会的使命を自覚され、近畿はもとより我が国のデザイン振興、産業の発展に寄与され、ますますご活躍ご発展されますことを期待いたします。

京都府知事　荒巻禎一

京都において活躍されているデザインに関係する十一団体が結束され、京都デザイン関連団体協議会が結成され一年が経過しました。

同協議会は、「二十一世紀の波は京都から」をスローガンとする「京都デザイン会議」を昭和五十六年から開催されてきたデザイン関係の団体が、その輪をさらに広げて総結集され、平安建都千二百年に向けての各種プロジェクトへの参画を通じて、洗練された文化風土づくりと都市活性化に貢献することを目的に、昨年五月に結成されたのであります。

以来、第七回京都デザイン会議の開催をはじめ、本年十一月に開催する国際テキスタイルデザインフェアの共催団体として、まさにデザイナーの立場で事業の成功に向けてご尽力いただいております。

現在、京都をあげて取り組まれている第四十三回京都国体や平安建都千二百年記念事業はもとより、二十一世紀に向けての京都の新しい街づくりには、洗練されたデザインが不可欠となっております。

新世紀を目前に控えて、豊かで活力あふれる京都づくりをめざして一層ご奮闘いただきますことを大いに期待してやみません。

京都市長　今川正彦

京都デザイン関連団体協議会の機関誌刊行にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

京都は千年の都として、その美しい環境と永い歴史の中で日本文化を培い、これを現在に継承してまいりました。

本市におきましては、貴重な文化遺産のうえに、さらに新しい文化を発展させていく都市を目指し、世界歴史都市会議の開催を始め、建都千二百年記念事業などに積極的に取り組んでいるところであります。

この様なとき、貴会が二十一世紀を志向し豊かな文化社会具現化の為、ご活躍されていることは、大変意義深く敬意を表するところであります。

今日、産業・文化の質的発展が望まれているところでありますが、こうした中で「デザイン」は不可欠の要素であり、分野の異なるデザイン団体で構成された貴会に大いに期待するところであります。

この度の機関誌の発刊を機に、貴会のますますの発展を祈念し、私のあいさつといたします。

京都商工会議所
会頭　塚本幸一

京都デザイン関連団体協議会がこのたび一周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

ご高承の通り、京都では二十一世紀に向けて平安建都千二百年記念事業など多彩なイベントやプロジェクトが企画されております。こうした状況の中で、昨年貴会が伝統産業から近代産業を包含したデザイン関連団体を大同団結され京都の新しい力として各種のイベント並びに文化諸事業に積極的に参画、企画されましたことを高く評価いたしております。

特に、今日、産業界におきましては、企業のデザイン力が技術開発と並んで、企業発展にとってきわめて重要な要件となっております。

本商工会議所といたしましても中小企業のデザイン力の向上と強化をはかるべく努力を傾注しているところであります。

貴会におかれましてもこれを契機に京都のデザイン向上のために一層のご尽力を賜わりますとともに、組織の基盤を固め、創造力と活力あふれる団体として更にご発展されますことをご期待申し上げます。

(財)平安建都千二百年
記念協会会長　桑原武夫

七年後に、平安建都千二百年という記念すべき歴史上の節目を迎えるにあたり、当協会は、京都の各界各層の方々のご参画のもとに、京都の活性化を目ざして記念事業の推進に努めているところであります。このたび、平安建都千二百年を一つの目標に、京都のデザイン界が大同団結し京都デザイン関連団体協議会を結成されて一年が経過いたしました。

人類はその抱く夢をデザインすることによって形にし、文明を創り、歴史をつくって参りました。ですからデザインは人類の活動のあらゆる分野にしっかりと根を張っております。それだけにデザインの分野は実に幅広いものがあると思うのです。その分野の異るデザイン活動の諸団体が集まり、互いに刺激し、学びあいながらこの一年間の活動を続けてこられたことはまことに意義のあることだと思っております。さらにこれからも結びつきを深め、京都の産業活動、生活文化の向上のためにがんばっていただきたいと思います。

京デ協とは

京都デザイン関連団体協議会議長　柴田 献一

昭和六十一年五月一日。京都デザイン関連団体協議会、略して「京デ協」が発足し、満一年が経過した。
これを機会に、参加団体の全会員ならびに関係各機関に、設立までの経過、設立の趣旨、そして社会的意義を知っていただくため、本誌の刊行を企画した。
本誌が各団体会員相互の理解と信頼を深め、さらに広く新しい分野の団体の参加を推進することに役立てば幸いである。

設立までの二十年

京都のデザイン界では既に衆知のことではあるが、「京デ協」の種子は、昭和四十二年五月に設立された京都デザイン協議会（現在の㈳京都デザイン協会・昭和五十四年改称）である。
第一線で活躍するデザイナー、林大功氏、富家宏泰氏、藤川延子氏等が、あらゆる分野のデザイン団体のリーダーを結集、組織した会であり、長年にわたって、まさに団体協議会としての役割を果してきたと言っても過言ではない。

社会情勢の変化

そして十一年後、昭和五十三年秋、我が国の工芸史上初の、そして最大のイベント、あの「WCC世界クラフト会議・京都」が開催された。
世界五十四ケ国、二千二百名を越える大イベントであった。
皇太子ご夫妻の行幸、経団連の支援、そして地元の複数団体の連帯による成果は、大会成功の世界的評価もさることながら、文化事業の実務ノウハウの蓄積と、人々のネットワークの力を自覚したことであろう。
ここに今日の「京デ協」設立への声無き意志が芽生えたといえる。

より連帯へ

WCCの興奮さめやらぬ二年後、昭和五十五年、関連七団体の共催による第一回京都デザイン会議が開催された。
既に我が国の低成長経済は慢性化し、高付加価値事業への転身へと産業構造が大きく変化している時であった。
デザイン界もプロジェクトチーム制が進み、横断型の時代に突入したという認識が次第に進んできたことからも、この共催事業は、昭和六十一年まで毎年開催され、六回を数え関係八団体共催となった。

反省と喚起

昭和五十九年、まだ記憶に新しい国際伝統工芸博「ハンズ'84」が京都で開催された。
これは伝統的工芸品産業振興法制定十周年の記念事業である。
博覧会の成功、不成功は、プロデューサーとスタッフ、ソフトとハードの力の協調にある。
しかし結果は、大阪と京都の混成軍であったことからか、必ずしも全体

が高品位であったとは言い難い。そして何よりも残念だったのは、人材が居ながら、自前のプロデューサー機構を活用できなかったことである。要するに地元での受け皿が無かった。という事への反省が、デザイン関連団体の中に濃厚に浸透したと言えよう。

設立へ…

昭和六十年七月二十二日、財団法人平安建都千二百年記念協会が設立された。

基本理念は伝統と創生。基本テーマは五つ。

一、新しいまちづくり
二、交通・情報通信網の整備
三、産業の振興
四、生活環境と地域社会の整備
五、文化の継承・発展

この五つのどのテーマをとっても、洗練されたデザイン無くしては、価値ある成果は期待できない。二十一世紀に生きる京都人のためにも〝今〟立ちあがらなければならない。

こうして昭和六十一年二月十四日、京都府、京都市、京都商工会議所のオブザーバーを招き、十一団体代表によって設立準備会が持たれ、「京デ協」は発足したのである。

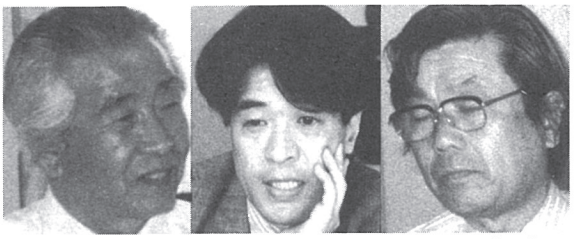
未来に向かって

来たるべき二十一世紀においても、京都がなお美しいまちであり、住みよいまちであり、活力あるまちとして世界に誇り得るまちであり続けるために「京デ協」がその一翼を担うだけでは勿論、十分ではない。都市文明は総体的なものであり、文化も多彩な専門分野の集積に外ならない。言わば、「京デ協」は創生への運動体の一つとして活動を続けることで、全方位の外延を広げる文化活動において、旗手の役目を果たすようでありたいと念願するものである。

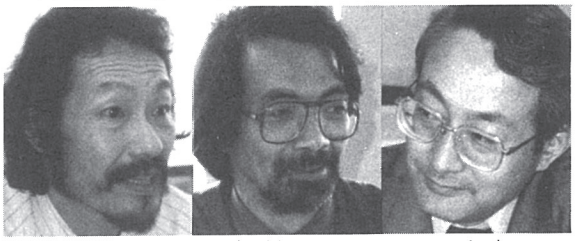
第七回京都デザイン会議（'87・3・29）

座談会 建都千二百年へのメッセージ

●希望が発車する町・情報が里帰りする町



川島春雄　阿部コオイチ　長戸幸雄



田積司朗　吉村元男　尼川恵一

南澤　弘　木下　稔　上田年子

近藤正雄　柴田献一　澤野周二

今西　慧　団　武夫　谷口主嘉

●とり急ぎお便り申します。

「恋　文」

今西　今日は京デ協（京都デザイン関連団体協議会）の座談会にお集りいただき、ありがとうございます。本日、初めてここで、お会いする方々もいらっしゃいますので、時計回りで簡単に自己紹介をお願いいたします。

柴田　京都デザイン協会（ＫＤＡ）の柴田でございます。本日は、財団法人平安建都千二百年記念協会から木下理事長にご出席いただいております。我々は、「記念協会」にラブレターを出す、というような熱い心でおりますので是非、この気持を受け取っていただいて恋の成就が果たせたらとひたすら願っております（笑）。

阿部　日本デザイン文化協会（ＮＤＫ）の阿部でございます。当協会は全国に十一の支部を持つ、主として服飾デザイナーの集まりでして、会長は森英恵さんのご主人、森賢さんです。私は京都の支部長をさせていただいております。

上田　ＫＤＫの上田年子でございます。

今西　ＫＤＫさんも「京都服飾デザイナー協会」ということで、ＮＤＫさんとは活動的には似ておりますね。

上田　はあ、服飾というところでは。ＫＤＫも元は全国組織の京都支部で発足しましたが、数年で解散し、その後京都府、京都市、地元の産業界と共に、今のＫＤＫとなったところが他の協会と少し違っています。服飾界の草分け的存在であります藤川延子先生や河合玲先生、私も含めてですが、最初のメンバーです。会員は三十四名でしたが、教師もおりそういう点では京都から全国へ、あるいは全国から京都へというネットワークは持っていました。

今協会が抱えている問題は会員の年齢の高さですね。私自身、藤川学園を去りまして、自分でアトリエと研究所のようなものを主宰するようになって、もう二十年ですから。理事長にだけはなりたくないと思っていたのですが（笑）。

長戸　京都建築設計監理協会の長戸です。

谷口　京都伝統産業青年会から参りました谷口と申します。本職は色紙・短冊等を取り扱っています和紙の加工業者でございます。

尼川　京都室内装備設計士協会の尼川でございます。

澤野　同じく京都室内装備設計士協会の専務理事をさせていただいております澤野です。本部は大阪にございます。

田積　ＪＡＧＤＡ（社団法人／日本グラフィックデザイナー協会）京都支部の田積です。会員は全国で千六百人。京都では八十名。会長は、あの東京オリンピックの仕事をいたしました亀倉雄策です。現在、ＪＡＧＤＡ京都は地区活動として、国際テキスタイルデザインフェア・京都織物会議（ＩＴＦ'87）、京都国体のポスター等の仕事を京デ協を通じてお手伝いさせていただいています。

近藤　日本庭園文化協会に属しております近藤と申します。今まで大変地道なというより、地味な（笑）、活動をして参りましたので、そろそろ、派手な（笑）、場所にも出てみようかということになりまして、やって参りました。

吉村　同じく、日本庭園文化協会の吉村です。今、みなさまのお手元にお配り致しました『庭園文化』という小冊子を季刊で昭和五十六年に創刊しまして、それこそ地味に「日本庭園」というテーマに取り組んで参りましたが、現在、休止状態です。何とかもう一度再刊にこぎつけたいと思っています。

また「庭園」という概念を広げた「街づくり」も我々のテーマの一つで、この五月三十日に、「京都景観デザイン会議」を、京デ協のみなさんに御後援願って開催する運びとなりました。コメンテーターとして、設監の長戸さんにもご出席いただくことになっています。

今西　なかなか派手に（笑）、いや活発に活動なさっている（笑）。

川島　川島でございます。私はＫＩＳとＩＣＣの二団体の代表として参りました。ＫＩＳというのは京都インテリア産業協会の、ＩＣＣは京都国際工芸センターの略称でございます。ＫＩＳの方は設立して十九年、染織が主で集まった団体でしたが、今はインテリアという言葉がみ

なさま御存知の通り、大変広がりを持って参りましたので、タピスリーや椅子の張り地の装飾用の染織から、壁装、そして椅子そのものへと広がってゆく中で〝もの〟としてのインテリアから、空間としてのインテリアまで、具体的に申しますと、建築空間総てに関わるという具合に内容が広がって参りました。そうなりますと必然的に、布だけでなく、木も、金属もということで、材質面でも色々なジャンルの方たちが集まる団体に変容してきています。

ＩＣＣの方は一九七八年の世界クラフト会議を契機に設立されました。各クラフトのまとめ、地方のクラフト・世界のクラフトを寄せられるような、そして、情報の機関として役に立つような存在でありたいと考えています。

今西　それでは、順番が少し先になるかと思いますが、席順ということで木下理事長さん。

木下　えー、私はそれこそラブレターをもらう側ですので、みなさんのお話を聞いてからということで――。何とか建都千二百年を歴史に残るものに出来たらということで、みなさんのご意見に大変期待をもっております。よろしくお願いします。木下でございます。

団　日図（社団法人日本図案家協会）の団でございます。岡崎の伝統産業会館の三階に事務局と展示スペースを持って、活動致している団体です。デザイン博物館もあります。京都が本部でございます。一応、宣伝をさせていただきました（笑）。

今西　さて柴田さんに〝恋文〟の打ち明け話をもう少し続けていただきましょうか（笑）。

柴田　まず木下さんへのラブコールとして、京デ協の設立趣意書にも明記されているように、千二百年事業に真正面から取り組むかたちで出発したことを再確認したいのです。

京デ協の設立は一年前に逆ります。今、こうやって各団体のみなさまにお集まりいただいたのは、京デ協の活動を少しまとめて、出来れば第二期の活動へと入りたいと考えたからです。そのためには現在約二千名余の各団体会員に参加していただいている京デ協の実体と申しますか、「一体何をしているところか」ということが少しでも解ってもらえるようなパンフレットのようなものでもいいから、文章にまとめて、会員のひとりひとりのお手元に届けたいと考えた次第です。行政の方から補助金も出してもらっておりますし（笑）、これは一つ頑張ってと（笑）。

京デ協は現在十二の団体で構成されております。各々の団体がそれぞれに個性を持っています。この各団体のターゲットと、京デ協という全体のターゲットを定めて、各団体も京デ協もパワーアップを図りたいと考えています。

今西　京都クラフトセンターの南澤さんのご紹介がまだでしたね。

南澤　いや、申し分けございません遅れて参りまして。クラフトセンターの理事長をさせていただいております南澤です。

今西　これで一応、ご出席のみなさまのお顔とお名前が一致したと思いますので、さらに恋文を書き綴っていただきたいと存じます。

谷口　先ほど近藤さんの方から〝地味〟というお話が出ましたが、地味と申しますと、私たちも、デザイナーというより〝ものづくり〟の者の集まりですので、地味さでは負けておりません（笑）。ただ、私はこの地味さが、現代では却って生きる、と考えています。また〝伝統〟かと言われそうですが〝時〟が作り出したものは誰が何と言おうと存在感がある。どうしようもなく〝もの〟たち自身の存在が、まず、私たちの前にデンとある。しかしいくら私たちがその〝もの〟の存在感を叫んだとしても、受け取り手の方では、「何やこんなもん」と思われるかも知れない。やっぱり、人と人との間に〝もの〟が在るということを忘れてはいけない。

私はこの三月から京デ協に参加させてもらってますけれど、それは〝手掛かり〟が欲しいからです。何かまだ具体的に言葉にならないんですけど、私たちはとりあえず、具体的な〝もの〟を持っています。これを〝京の〟伝統産業という枠の中で縛ってしまうのでは〝もの〟は喋り出さない。何か、何かをこの〝もの〟たちに与えたい。そして大変逆説的なんですが、〝京の〟ということは捨てたくない。

今西　谷口さんのおっしゃること解りますナァ。デザイナーが伝統産業に手を加えると必ずプラスかというと、これ疑問やと思います。地域性、風土性ですか、京だけやないけど、そういうものを失うと〝もの〟はとたんに萎れてくる。

谷口　植物の根みたいなもの違いますか。やっぱり、好みの土がある。そこで花が咲く。私はどうしても〝京の〟にこだわってしまいます。

南澤　それはそうですけど、それやったら何が〝京都の〟なのかというのが問題。

そもそも私が思うに、遅れて来て、折角の集まりに水差すようですけど。

今西　かまいません。どんどん水差して下さい（笑）。花が潤います（笑）。

南澤　私、建都千二百年というものにそもそも疑問を持っているんです。千二百年言うと、いつも千百年の時点の例が上って来て、千百年があれだけのことしたんだから、千二百年も頑張らなアカン、と言うでしょ。そやけどよう考えたら、百年前に倒産した会社が今さら創立記念日を祝うようなもんと違いますか。もう都はとうにここにないので。百年前に東京へ引っ越してしもた。

今の時点では廃都百年ということで、京都が今もキャピタルやったら、情報は放っておいても入って来る。

●あれから百年経ちました。

「廃　都」

今西　今、南澤さんがおっしゃったこと、「建都」と「廃都」を同時に考えてゆく、ということ。私は「建都千二百年」を考える重要なポイントの一つだと思います。裏返しの発想。例えば、京都のいいところを考える時に、手段として京都の悪口をまず言ってみる。作家の秦恒平さんが『京の悪口』書いてますけど、あの人はほんとは京都愛している、というのが、ヒシヒシ伝わってくるんです。逆説的なアプローチ、つまりマイナス発想がプラス発想を生むということ。

南澤　そうです。私が言いたいのは、ここからで（笑）。私は絶対に京都は津和野や萩と同じやないと思っています。思っていますが、外から京都を見はる人は京都も津和野も萩も同じように見る。

ただね、私、クラフトセンターやっていて、感じるんですが、作り手の方がどうしても外に出てしまうという問題がある。しかしその方が作品展とかをやる時は必ず〝京都〟へ戻ってくる。

あるいは高知の人がやって来て、自分の作ったものを是非〝京都〟で売りたいとおっしゃる。やっぱり京都はクラフトにとってキャピタルや、とその時は思うんです。京都で認められたら一人前みたいな考えが〝ものづくり〟の上ではまだあります。

今西　京都の人の眼は厳しい（笑）。

南澤　意地悪いんですな。そやけど底意地悪いんやなくて、一つ文句は言う、そういう姿勢。

今西　文句言う、っていいことやないですか。

南澤　そう、学者さんの批評、評論とは違います。文句言う人は一所懸命言う。

今西　京都人は言う時は言う。

南澤　マアマアって言うのが京都の人みたいに思われてるけど、そうやない。

川島　ＫＩＳを作りました時、やはり伝統産業というものにこだわりましてね。古い日本的なしきたり、所作、これは京都では割合、自然なことでしょう。そういうところから出発して、これは先程の谷口さんのご意見と少しズレるかも知れませんが、結果から申しますと、ダメだったんです。どうしても今様の生活に合うものというと洋風感覚を採り入れなければ、ということになりました。まあその展開は、さっき、申しましたように染織部門だけでなく、他のジャンルへの広がりとなり、空間を考えるというところまで行きまして、ＫＩＳ自体の成長とはなった訳ですけど。ですから今ではインテリア産業協会という名からハミ出した部分の活動が多いですね。エクステリアはもちろん、都市景観まで考える、というところまできています。

しかしまた一方で、谷口さん、南澤さんの意見も非常に今後の京都を考える上で、貴重なご意見だと思います。実はうちの方の仕事の話で恐縮なんですが、こんな話があります。クッションをギフトとして展開しようと致しまして、その〝器〟を考えました。京都の〝もの〟には器になり得るものがたくさんあります。その中で、みなさんご存知でしょうか〝ボテコ〟というものがありまして、ある老舗のボテコ屋さんにご相談したんです。ボテコ仕上げに現在はカシューを使っていますので、蓋も身も、クッションを採り出すと、花器にも酒落た物入れにもなる。ところが、この計画、今、ストップしているんです。その理由の一つは非常にお値段がお高い（笑）、二つめは量産体制が出来ない。おじいさんが一人でコツコツと作っているんですが、漆をカシューに変えた以外、絶対に、他の工程は省かない。竹籠に収帳張って、和紙張ってと。糊も道具も、包装紙も自家製。

ボテコもね、使いようでは決してダサくない（笑）、酒落ていますよ。何よりもラッピングというコンセプトを切り口にすると、それだけでモダーンになる。

今西　ボテコは文化ですよ。文化の担い手です。そういう方に手を省いて、下うけに出して、とはもう言えないし、それすると、さっきも言いましたが〝もの〟は萎（しぼ）んで台無しになる。

団　ええもんや、というのと〝売る〟〝売れる〟ということの狭間でうちも悩みが多い（笑）、日図も海外展などをやっていますが、〝文化〟では認められるけど、産業となると難しい。けれどやはり産業が先行せんと、僕はアカンと思う。

僕は今までの日図の活動を通して思うんだけど、やっぱり、海外とダイレクトに結び付いて、何とか文化を産業に持ってゆきたい。そういう意味で関西国際空港には期待を持っています。とにかく〝人〟が京都へ入って来る。

それと建都千二百年の事業の一つとして二条城の天守閣を復活させようやないか、ということを聞きますが、僕は、何でそんなもんに固執するのかよう解らん。それよりかもっと超現代的シンボルを作ってしまう方がいい。思い切ってやる。〝思い切り〟が今、大切なんやないかな。鴨川の西と東を真二つに分けて、例えば東は、それこそアナクロニズムと言われようと古い昔のものにとことんこだわる。しかし西は超モダーンな建築とストリートで、全く新発想の町並みを作る。これは例えやけど、僕は今西さんが言ったように「逆をつく」みたいな見方をしていかんと、京都の活性化も発展も、もうドン詰まりに来ていて、身動き出来んのと違うかなと思うんです。例え、人を驚かすような超モダーンなことやっても京都の文化は消えない、絶対に。

今西　「ブンカ　ブンカ」と話していると、黒船時代のことみたいですけど（笑）、要するに気配を読むことですよね。目に見えぬこの〝文化〟というものは京にピッタリとくっ付いて、我々の周りを漂っている。だからもっと、もっとひつこく〝文化〟は考えてもいいね。

南澤　ただし、学者さんの「何とか論」はもう結構です（笑）。

今西　阿部さんのところは〝文化〟がついてますね。日本デザイン文化協会（笑）。

阿部　そうですね、足かけ三十年〝文化〟を名乗っています（笑）。

コスチューム、洋装のデザイナーの集まりから、それこそKISさんと同じで、どんどん広がりを見せまして、テキスタイルの方、これは和も洋も含んでいます。そして美容。そして少数ですが、ファッション専門のカメラマンと大いに〝文化〟しています（笑）。

ファッションからインテリアとその仕事の幅は広がって参りましたし、逆にインテリアからファッションという流れも、最近は見ています。例えば、「ベッドまわり」ということを考えると、そこにベッドカバーから、ナイトウエア、照明、椅子、クッション、小物類と、いくらでも僕等の出番はあります。ナイトウエアからは出て来なかった発想が、ベッドを起点に考えてゆくと全然違う発想に出食わす、ということがあります。ここもKISさんと同じなんですが、そういう〝意識〟を持って発想するということが大事です。布帛（ふはく）だけに素材も留らない。竹も

金属も木も硝子も陶器もと、生活スタイルのすべてが登場してきます。

デザイン会議やこの京デ協に参加させてもらっているのは、僕は京の情報というものが欲しいからなんです。なぜ情報は東にばかり集まるのでしょう。僕は関西の情報は何なのか。京都の情報は何なのか、ということを考えたい。それが〝文化〟だと思います。

京には情報がうんと濃く堆積しています。

上田　うちの団体でも、いつも阿部先生が今、おっしゃられたようなことを話しています。京都にはこんなにいいものがあるのに、なぜみんな〝東京〟〝東京〟って言うんでしょうか。確かに刺激材料にはなると思います。ですけど西武さんが、デパートの〝もの〟のセレクションすごくきれいにしてはるなあ、と思ってよくよく見ると、それが京の〝もの〟だったりする。西武さんのは要は見せ方。空間をデザインしている。だから〝もの〟が別の表情をもって、見えてくる。それが西武さんは大変上手なんです。

と言って京都ってぜんぜん動かない町かと思っていると、あの室町に「室町二世の会」が出来たりするんです。彼等は〝本職〟を持っていますから、創造の部分を肥大化して〝考える〟ことが出来る。しかも〝室町〟のことはきちんと頭の中に置いている。

私は若い人達に期待しています。京の〝文化〟を持って各地方へ飛んでいった一万人を越える私どもの生徒たちにも、大いに期待しているんです。

今西　現在のKDKさんの中心を担う方々の平均年齢と申しますと――。コレ、失礼かな。

上田　四十代ですけど、今は企業も厳しい状態で、四十代は大変です。かつては二十代が一人前の仕事をしておりました、私も含めて（笑）。

●鎮守の森で逢えますか。

「文　化」

長戸　木下さんのいらっしゃる前でこう言うのも何なんですが、行政は〝文化〟を評価しないですね。団さんが言われたことに私も同感なんですが、思い切った決断が、今、必要なんじゃあないでしょうか。我々が動こうとすると必ず風致課とぶつかる（笑）。風致課だけの考えで我々は建築物を作っているんじゃない、とほんと、言いたいですよ。

「若い人」という問題、「外国からの評価」ということも、私の考えるところと一致するんですが、留学生の、若い外国の方たちの目で見た京都というのを分析してみると面白いと思うんです。

京都に住みついている彼等の意見を私は批判的にとらえているんです。ほとんどの人が「京都は暮らしやすい町」と言うと思うんですが、私はその「暮らしやすさ」が一つには京都の発展を妨げていると思うんです。

しかしまた斬新な視覚というのは、そこらあたりを考えてゆく中で出て来ると思うんです。比較文化論は、必ずしも諸外国を見倣えということじゃないんです。

吉村　そこらあたりの詳しいところは「ミュンヘンからの新しい潮流／美しい京都の景観デザインを考えよう」でぜひ（笑）。

澤野　先日のデザイン会議で、建築家の大倉達也先生に私どもの分科会のコーディネーターになっていただいたんですけど、発想の転換の例として、先生のご意見、「東本願寺の隣に超高層ビルを建てたら」というのは面白いと思いました。

私達の団体は経営者の方が多く、それも家具屋という限られた分野ですので、いつも他の分野の方々のご意見を拝聴させていただくように心懸けているんですが、大倉先生という方はボストンやアテネに住んでいらっしゃって、そしてこの京都にいらっしゃったんですが、なぜ、東京じゃなく京都かというと、中規模都市というところが魅力だと言うんですね。町全体が見える。町の端から端まで歩いてゆくことも可能だし、山も川も、すぐ傍にある。しかも〝都市〟である。それが魅力だとおっしゃられたんですが、解りますね。掌（たなごころ）の中で考えられる都市、そんな感じだと思うんです。それと自然、これはもう絶対文化ですし。

今西　またまた〝文化〟が出て来ましたね。吉村さんのところも「日本庭園文化協会」と〝文化〟がついていますので、いかがでしょう。

吉村　自然が文化というのは全く正しい（笑）。私どもの発信基地はあくまで「日本庭園」です。庭というものはしかしイコール自然ではありません。それこそそこに〝文化〟があります。

これはもうこの場では蛇足でしょうが、一般に「京の坪庭」（中庭）と言われるもの、あれは機能で言うとダクト装置です。また採光の役割も果たしていますが、京の町屋、俗に〝うなぎの寝床〟といわれる作りでは、家の中に庭、天と地を繋ぐものが必要なんです。そこに風が通う、すると通気と換気を、美しい眺めが、自然にやってのける。

そして庭は神の降臨の場。現代の鎮守の森なんです。そこに例え社はなくとも、庭はあらかじめそういう性格を持っています。鎮守の森はかつてのコミュニティ広場。私どもは、個人の庭、公共の庭も含めて、そこに神性をみます。ただそれはやはり自然とイコールではありません。庭は人がしつらえるものです。ですからそこには文化、時代が反映します。

作庭には歴史、民俗、信仰等が関与します。その中から〝現代〟という時代を引き出さなくてはならないので、やはり並大抵の仕事ではない（笑）。お手元に配らせていただいた『庭園文化』はそういう想いの中で、「庭」をもう一度最初の形から繙（ひもと）いてもらおうと考えて作ったものです。各識者からのご意見 ― 学者先生が結構多いんですが（笑） ― を伺って我々の活動に人類の知恵のようなものを教えていただきたいと思ったのです。

今日、一緒に参りました近藤氏は、「立命日本史」を大学院で学び、その後、庭師のもとで十年間修業し、独立したという変わり種ですが、庭師というのはスゴいと思いますね。建都千百年の平安神宮の庭は小川治兵衛という京の有名な庭師の作品ですが、正に作品なんです。

近藤　「京の工芸」というと必ず出てくる位、手の仕事ですね。小川治兵衛の庭と呼ばれるところが京のスゴさでしょう。まあ小川治兵衛の場合、バックに山県有朋というパトロンがいた訳ですけど、職人が名を残すというのはやはりスゴいことだと思います。

吉村　私はとても庭師とは自ら言えませんので、環境デザイナーと一応名乗らせてもらっています（笑）。

庭は理論だけで構築していってもダメです。ある種の〝直観〟がなければ。

建都千二百年も、建都千百年と比較するのではなくて、いっそ、一気に桓武天皇の時代までタイムスリップして、そこで考えてみると何か面白いことが見付かるかも知れません。建都千二百年の発信基地はどこか。

私の方では発掘の復元の仕事もしているんですが、これは新聞でも大々的に報道されましたので、もうみなさま御存知のことと思いますが、奈良の市役所前から「曲水の庭」が出て来た。「曲水の宴」というと城南宮など、平安京の時代が初めと思われていたのですが、奈良では城南宮のようなあんなチマチマしたものじゃない。巨大な曲水の庭が出て来た。しかもそれを上空からみると、碁盤の目に整備された平城京のど真ん中にあって、「龍」の形をしているんです。

今西　龍ですか。やはり信仰との関わりでしょうね。

吉村　何か秘められた〝祈り〟があったと思います。守護神か魔除けか。

それで私どもが今、やりたいなあと思っているのが「寝殿作りの庭」の復活なんです。

今西　『源氏物語絵巻』に出て来るような。

吉村　そうです。あるいは『春日権現験記絵』に出て来るような。

今西　しかし莫大な費用がかかる。

吉村　そう、それで何とかそのお金を引き出すために、東京人風にうまく国をダマして、国からお金を引き出そうと思う。二千億、三千億の単位のお金が必要なんです。そのためには〝国〟です。そしてそこに民間のパワーを結集させたい。

今西　それこそ京デ協の仕事ですね。すると、「建都千二百年」の発信基地は京都というより日本ということになりますか。

吉村　京都イコール日本へ持ってゆきたいんで

す。

今西　なるほど、桓武天皇の御命日と考えれば、国も黙っている訳にはいかないしね。「建都千二百年」を国の事業として動かす、これはいい。

田積　うちは「金を出さす」のが非常に下手な協会ですが、やっぱりスポンサーは必要ですから国というのは望むところですね。しかもノウハウはこちらが完全に握っているというところでやりたい（笑）。

これだけの人達が集まっていれば、何でもこなせますしね。アッ、衣食住の「食」がないのか。

谷口　ありますよ。うちには京菓子も清酒も食まわりの器もあります。

田積　これは失礼しました。じゃあそれこそ、口紅から飛行機まで作れる訳だ（笑）。

ここでちょっとグラフィックの方からの発言をさせていただくと、時代を如実に語るものとして「広告史」というのは一番時代に敏感で正直なものやないかと思うんです。広告は文化を担って来た、僕はそう思う。建都千二百年計画の中に、「広告文化美術博物館」も企画に入れてもらいたいんです。せめて昭和の初期から今日、明日へ向かっての「広告遷史」のコレクションができれば、「伝統、未来への創生」的発想としても次期千三百年に向かってのデザインであると思うんやが。

●川上から夢を流します。

「出　発」

尼川　みなさん、かなりレベルの高いお話をしている最中に、突然、こんな質問をするのは申し分けないんですが、これ、あくまで私個人の疑問としてお聞きしたいんです。

今西　どんどん、おっしゃって下さい。

尼川　私、もう一つ「京デ協」が解らないんです。一体、私ら何をここでするのか。もちろんすぐに〝仕事〟と結び付けてということではないにしても、先ほども文化と産業の話が出ましたが、折角、木下さんもお見えになっていることだし、具体的に何をするのか、そういうお話をお聞きしたいんですけど。

今西　尼川さんのおっしゃることは我々みんなの本音ですよ。最初に柴田さんがラブレターと言ったのもそういう意味合いを含んでいる。どうですか柴田さん、尼川さんのご質問を受けてというか、いよいよラブレターの本筋に入られては。

柴田　想い余って、何も言えないというのも個人的にはありますね（笑）。

これは尼川さんの問いに対する答になっていないかも知れませんが、京デ協はまず「川上論」から行くべきだと思う。その後で自然に「川下」の現実の〝仕事〟が発生するんじゃないか。その資料としてこの半年位の間に新聞に載った、今皆さんのおっしゃる〝京デ協〟的事柄の記事をファイルした中から掲載日順に申しますと、まず「河原町御池の第二地下街（建設省）」。「道路標識の一新（建設省）」。「国際交流会館（市）」。「鴨川・三条四条間に人道橋（市）」。「都心部〝田〟の字計画（市）」。「美山町芸術村（美山・京北両町）」。「京阪地下化による地下街整備」。「鴨川東岸に桜の回廊（民間デザイナー案）」。「京の町家再生（市）」等々――今すぐにでも私達が参加出来そうなものが目白押しなんです。これを放って置く手はない（笑）。

例えば、この「町家の再生」、これは京都市住宅局の企画「ホープ計画」の一つなのですが、従来の京の町家がもっている美しさや良さを、現代の住居に生かそうというものです。そして住宅だけでなく、それに付随する〝もの〟も同時に作ってさらにきめ細かいアプローチとして、素材の見直しや生活提案なども自然に出て来る訳で、全体として我々「京デ協」が十分関われるプロジェクトです。こう言った〝現在進行形〟の企画に対して、我々が積極的に関わって行くためにも、私はまず、「川上論」、つまり気持、イメージ、その辺を摑んでおきたい。

南澤　請求書を出せる〝仕事〟というのは「川上論」をやってからということですね。

柴田　そうなんです。

今西　恋文にまず夢を綴ろうという訳ですね。

柴田　僕はやっぱり「川上論」をしっかりやってないと川下でいい仕事が出来ないと思う。大変まどろっこしいことのように思われるかも知れないけど、僕は「川上論」をやることで必然的に、それこそ桃がどんぶらこと流れて、川下で桃太郎になるように、何かがきっと生まれると信じています。

今西　今、目の前にあるものとしては、一応、ＩＴＦ'87京都・世界織物会議と、六十四年の京都国体。

木下　先程、吉村さんから国からお金を取ってくるというお話が出ましたが、とにかく国の動きは鈍いというか、色々手続きが複雑で時間がかかる。

　京阪の地下化がやっと実現しますが、五年遅れたんです。これも国の補助金の遅れ。もし京阪が自腹でその大金を立て替えることが出来ていたら、あそこは現在、どうなっていたか。五年という歳月は大きい。

今西　あそこが大きく変わっていたら、当然河原町へも影響が出たでしょうしね。三つか四つか在った浄土宗のお寺を岩倉、八瀬へ移転させたりして最初、ようやっているな、という感じでしたが、その後が続かなかった。

南澤　高山彦九郎さんに東京の方、向いてもらっとったら、もうちょっと早かったかも知れませんな（笑）。

木下　この種の大事業では住民の納得というのが一番難しいですからね。お寺なんか動かすのは一苦労なんです。何せ京都は宗教都市でもありますから。

　それと洛南サイエンスタウンでも住民の納得を得る必要があるんです。もうこれは住民の意識と、やろうとしている側のネバリ合戦。

今西　大勢はどうですか？

木下　住民の方が圧倒的に強い（笑）。それと京都はさっきから南澤さんが繰り返し嘆いていらっしゃったが、学者の意見、方向で動いている、というところがあってね。いつも〝守り〟の姿勢ですから。

　京都の都市文明というのは他の地域のそれとニュアンスが少し異なります。京都の場合、第一に芸術、第二に学術、第三にやっと産業なんです。

　千二百年のモニュメントのお話も色々と聞かせていただきましたが、難しいですね。二条城の天守閣は果して京都のシンボルになるか――もちろん理由はいくらでも付けられる。秀吉の文化ということでしたら、必ずしも武家文化だけで割り切れないところがある。彼は京の風流、雅の担い手でしたからね。都市計画者としても優れていた。しかしそれが即、二条城の天守閣かと言うとね、必ずしもそうじゃないという気がする。

　他に、こちらの意見ではありませんが、二条駅に朱雀門、九条に羅城門という話も出ていますが、各々にもう一つという感じがします。

近藤　柴田さんの「川上論」は川上の水源をいつもいっぱいに満たしておこうという発想だと思うんですけど、私も緑屋なんで〝水〟は絶対に枯らして欲しくない（笑）。緑が青々としているのは逆に言えば水が豊かなこと。「新芽」というのは「緑の語源」なんですが、私は緑でもって京という古木に新芽を吹かせたい。

柴田　正にそうだと僕も思う。是非、庭園文化協会も先ほどの「ホープ計画」に参加していただけるといいね。建築屋さんもいるし、大手のゼネコンではダメ（笑）。それと伝青さん、室内さんにも頑張っていただきたい。

長戸　「ホープ計画」は昭和六十二年十月から六十七年九月までの五年の事業ですし、それこそ京デ協の事業として手に合う感じがしますね。その五年間で、京デ協は大いに川上を豊かにしたい。特に伝産・クラフト関係のオプション、クラフト・リファインというところで、京の〝もの〟たちと我々は真実の対面が出来るかも知れない。ドアと把手、水道の蛇口一つにもこだわりたい。そういう場面にクラフトが出て来ると、絶対に面白いものが出来ると思う。木造の家は高く付くと言うが、ヒノキやスギでも柾目のものが高いんで、節があれば柾目の十分の一の価格で済むんです。

今西　大体、まとまって来たみたいですね。

吉村　国をいかにダマすか（笑）。

木下　新芽を早く見たいですヨ。我々を驚かせて下さい。

今西　花を咲かせますか（笑）。

南澤　京都はまだ枯木やないです（笑）。

阿部　一つ考えておきたいのは、消費者のレベルの高さ。彼等はよく知っています。何がいいか、何が悪いか。

僕は消費者のみなさんから多くを学びました。

柴田　消費者も我々にとっては大切な情報提供者。「京デ協」、京都デザイン関連団体協議会に「関連」という言葉を入れ込んだのは、「役人でも経営者でも職人でもクリエイティブな人たちなら誰にでも参加していただきたい」という願いを込めてのことなんです。

京都という町はドリーム・タウン。みんなが里帰りする町。東京の人も、世界に散った人も、〝情報〟というおみやげを携えて里帰りする町。

今西　そして京都発の情報が発車する町にしたい。

柴田　まだまだ、ドリームだけどね。能の舞台でシテが最初〝人〟として出て来るのだけど後に霊や神となって現われる。つまり変身してパワーアップしている。そんな都市に京都はなれるんじゃないかな。

今西　大変ロマンチックに締めくくっていただいたところで――本日はご多忙の中、みなさまにこうしてお集まりいただいたことを、大変感謝いたしております。ありがとうございました。

〈座談会出席者〉

- **木下　稔**――㈶平安建都千二百年記念協会理事長
- **団　武夫**――㈳日本図案家協会会長
- **上田年子**――京都服飾デザイナー協会理事長
- **阿部コオイチ**――㈳日本デザイン文化協会京都支部長
- **谷口主嘉**――京都伝統産業青年会会長
- **川島春雄**――京都インテリア産業協会会長
- **柴田献一**――㈳京都国際工芸センター理事長
- **澤野周二**――㈳京都デザイン協会理事長
- **尼川恵一**――京都室内装備設計士協会理事
- **南澤　弘**――㈳京都室内装備設計士協会専務理事
- **長戸幸雄**――㈳京都クラフトセンター理事長
- **田積司朗**――京都建築設計監理協会会長
- **吉村元男**――㈳日本グラフィックデザイナー協会京都地区代表幹事
- **近藤正雄**――日本庭園文化協会代表

〈司会〉

- **今西　慧**――㈳京都デザイン協会副理事長

（昭和六十二年五月九日、京都ロイヤルホテルにて収録）

京都デザイン関連団体協議会

社団法人日本図案家協会（日図）
京都服飾デザイナー協会（ＫＤＫ）
社団法人日本デザイン文化協会京都支部（ＮＤＫ）
京都伝統産業青年会（伝青）
京都インテリア産業協会（ＫＩＳ）
社団法人京都デザイン協会（ＫＤＡ）
京都室内装備設計士協会（ＫＳＳ）
協同組合京都クラフトセンター（ＫＣＣ）
京都建築設計監理協会（ＫＳＫ）
社団法人日本グラフィックデザイナー協会京都地区（ＪＡＧＤＡ）
日本庭園文化協会（庭園）
社団法人京都国際工芸センター（ＩＣＣ）

〈オブザーバー機関〉
京都府商工部染織工芸課
京都府立中小企業総合指導所
京都市経済局商工部伝統産業課
京都市工業試験場
京都市染織試験場
京都商工会議所商工振興部
財団法人平安建都千二百年記念協会

①団体主旨　②設立年月日（設立および法人許可）　③所在地・ＴＥＬ・ＦＡＸ　④代表者　⑤理事・役員構成
⑥運営基盤　⑦会員数　⑧会員構成・資格　⑨会費　⑩実施事業　⑪沿革　⑫出版・広報

(社)日本図案家協会

JAPAN DESIGNERS ASSOCIATION

1 本法人は、国内外における図案の調査並びに研究を行い、後継者育成として有能なる図案家の指導と養成に努め、図案の芸術性を高めると共に図案文化の向上と普及並びに我が国創造資源の開発と産業の振興発展に努め、もって我が国芸術文化の向上発展に寄与することを目的とし、本協会が設置、運営する日図デザイン博物館の目的とする美意識変遷百年史に向けての図案史資料等の収集保管を行い、設立以来、これら目的を遂行すると共に、図案の著作権保護の確立をめざし、我が国唯一の図案家の団体として研究・研鑽を重ね、事業遂行に邁進するものである。

2 昭和一一年（一九三六）五月　日本染織図案家連盟発足
〃　二一年（一九四六）四月　日本染織図案家連盟再発足
〃　三八年（一九六三）三月二五日　社団法人日本図案家協会設立

3 京都市左京区岡崎成勝寺町九―二　〒六〇六
TEL〇七五―七六一―五三八一
FAX〇七五―七五一―〇七〇六

4 団武夫

5 会長一名、副会長五名、常任理事四名、理事一二名、監事三名、日図デザイン博物館館長一名

6 会費収入により運営。

7 名誉会員一四名・正会員六〇一名・準会員一四二名・賛助会員三二三社

8 正会員…創作図案家として十年以上の画歴、正会員二名以上の保証人並びにその推薦と所属部長・支部長の承認を得た者。準会員より正会員に推薦されるときは、準会員として三年以上在籍し、塾主の所定教育を経た証明と所属部長・支部長の承認を得た者。
準会員…正会員の塾生として三年以上の専門教育を受けた者。または高校並びに二年制短大の美術デザイン専攻を卒業し二年以上の専門教育を受けた者。その他関係研究機関において前記に準ずる専門教育を受けた者。四年制の芸術大学または、これに準ずる大学卒業者で一年間専門教育を受けた者。

9 入会金…正会員三万円　準会員五千円
年会費…正会員一万二千円　準会員三千六百円
分担金…正会員一万円（年額）

10 創作図案展の開催、後継者育成事業に加え、昭和五一年（一九七六）に日図デザイン博物館を開設し、以後「フランス染織文化展」（フランス・ミュールズ染織美術館と姉妹提携による）、「フランス十九世紀田園の民衆文化展」等の開催をはじめ、吉祥図案展、こども美術展等も毎年開催している。海外活動としては、昭和五十四年フランス・リール市で日図準会員展を、また五十九年にはニューヨーク市で日図壁面装飾図案展を開催し好評を得た。さらに、海外で開催される各種展覧会には会員を推薦し出品参加している。

12 「日図広報」（機関誌・会員、賛助会員および官公庁、関係団体組合に配布）、「日図会報」（機関誌・会員および準会員に配布）、「図案ライフ」（月刊および増刊）ほか。

京都服飾デザイナー協会

1 本協会は、会員相互の信頼と協力によって服飾全般にわたる研究調査、ならびに服飾デザインの創作にたずさわる研究団体として設立し、主として京都に在住するデザイナーによって構成し、特に京都の服飾文化の普及向上に努めるとともに、進んで服飾産業の発展に寄与することを目的としている。また、新進デザイナーの育成に努めて企業に人材を供給し、常に最新の情報を業界、一般に提供するとともに、会員間はもとより関連諸団体との交流を心がけ、広く情報の流通と親睦を図り、あらゆる文化的、社会的イベントに積極的に参加してその振興と活性に協力している。

2 昭和三〇年（一九五五）五月二〇日　発足

3 京都市上京区今出川通河原町西入ルつくしファッション内　〒六〇二
TEL〇七五－二三一－八七一八

4 上田年子

5 会長一名、理事長一名、副理事長二名、理事六名、監査二名

6 会費収入により運営。

7 四七名（特別会員六名・正会員二八名・友の会会員一三名）

8 正会員…十年以上の服飾経験者、または新人作品コンテストに三回以上の入選者で、二名以上の会員推薦者を必要とし協会が適格と認める者。

9 入会金…正会員五万円　友の会…五千円
年会費…正会員四万円　友の会…五千円

10 ・隔月の例会を持ち、研究会、懇話会、連絡会などを行う。
・毎年定期的に作品発表会、講演会、研究会を開催。
・服飾産業発展のためのパブリシティ並びに見本市、ファッションショウの開催。
・服飾デザインの各種研究とその紹介（歴史、流行、形態、色彩、素材、資料収集等）
・服飾産業に関する社会、経済、環境、並びに消費動向などの研究とその紹介
・服飾デザインに対する意匠権の確立と保護。
・服飾デザイナーの社会的、経済的な環境作り、地位の確立、生活保護など。
・服飾関連産業界との交流。
・服飾デザイナーの育成。

11 昭和三〇年（一九五五）五月　京都服飾デザイナー協会発足（幹事長・河合玲）
〃　五〇年（一九七五）五月　創立二〇周年KDKメモリアルショー開催
〃　五三年（一九七八）　日図博物館にKDK作品寄贈始める
〃　五六年（一九八一）　会長、理事長制に改訂
〃　五九年（一九八四）十月　国際伝統工芸博京都に参加
〃　六〇年（一九八五）九月　創立三〇周年記念式展を開催

12 「KDK創立三〇周年記念誌」（昭和六〇年発行）、会員名簿（二年毎に発行）、ファッションショウパンフレット（毎年発行）ほか。

㈳日本デザイン文化協会京都支部

NIPPON DESIGN CULTURE ASSOCIATION KYOTO BRANCH

1 本邦服飾界の第一線デザイナーの団体として発足し、我が国唯一の服飾文化団体として正しい服飾の知識と技術の普及向上、海外との交流、会員相互の研修などを行い、服飾文化の振興に寄与、積極的な活動を全国的に続けている。会員は正会員、普通会員、賛助会員の区分にわかれており、我が国におけるファッション関係の有力者を始めとした幅広い会員構成で、現在全国十一支部、正会員千人を越えるまでに成長している。

京都支部は発足して二十九年が経過し、会員の専門分野もだんだんと拡がり、アパレル・テキスタイル・染色・和装・アクセサリー・美容など幅広いクリエーターの集団としてトータルファッション時代にふさわしい新しい組織づくりを行っている。多くのジャンルの会員が、情報を自由に交換し、刺激しあうことでお互いに飛躍し、時代にマッチした新鮮なファッションを生み出す原動力となっている。

昭和三〇年（一九五五）一月一一日　日本デザイン文化協会創立

〃　三一年（一九五六）五月二日　社団法人許可

〃　三四年（一九五九）六月二六日　京都支部設立

2 本部　東京都中央区銀座三－一〇－一九美術家会館内　〒一〇四

TEL〇三－五四三－二五三六

3 京都支部　京都市中京区烏丸通夷川上ル京都商工会議所五階一一号室

〒六〇四　TEL・FAX〇七五－二一一－五七〇一

4 本部・森賢　京都支部・阿部コオイチ

5 支部長一名、副支部長五名、理事一六名、会計三名、監事三名

6 会費収入により運営。

7 一四一名（社）（正会員八八名・普通会員一七名・賛助会員三六社）

8 正会員…ファッションデザイナーまたは、ファッションビジネスに十年以上携わる者、または新人デザインコンテストに三回以上の入選者で、役員二名以上の推薦を受け理事会にて承認された者。

9 入会金…正会員三万円　普通会員二千円

年会費…正会員三万六千円　普通会員八千四百円　賛助会員三万六千円

10 コスチューム、テキスタイル、染色、ヘアー、アクセサリー、写真…とファッション関係の有力者を始めとした幅広い会員構成で、特に賛助会員は服飾文化関連の有力一流企業の参画を得て、服飾文化の振興のためにファッションセミナー、ファッションショー、新人デザインコンテスト、親睦パーティなどを開催している。

11 昭和三〇年（一九五五）一月　日本デザイン文化協会設立（理事長・伴野文三郎）

〃　三一年（一九五六）五月　文部省より社団法人許可

〃　三三年（一九五八）　NDK支部設置規定決定

〃　三四年（一九六九）六月　京都支部設立（支部長・松田千代、正会員二一名、準正会員三九名）

十月　京都支部第一回モードショー

12 NDK新聞「ファッション・アイ」（会員、業界に向けて京都支部より年三回発行）

京都伝統産業青年会

1 千年の都と言われる京都には、遥か先人達が培ってきた伝統の技に支えられた数多くの職業が、今もなお脈々と受け継がれ今日に息づき、優れた商品を作り続けている。これらの商品は、熟練した多くの職人たちの手によって作られるが、その工程は専門化、分業化され、なお複雑な流通を経て全国に送り出されており、従って同じ商品を扱っていても流通の段階が少し隔っていれば、他の事業所の詳しい実情はなかなか理解できず、まして取り扱い品種も業態も違うとなれば殆んど判らないのが現状です。本会は、様々な考えを持った他業種の多くの人々と交流を深めることにより、お互いの視野を拡げ、新しい切り口で自らの仕事を見直すとともに、単位青年会では資金的にも人的にも実現不可能な、且つ伝統産業界全体の振興、啓蒙のための事業を展開し、業界の発展に寄与することを目的としている。また、講演会や勉強会を開催し会員各自の自己啓発を行うことも目的としている。

2 昭和三八年（一九六三）九月　伝統産業青年部懇談会発足
〃　四〇年（一九六五）六月　創立総会
〃　四一年（一九六六）四月　京都伝統産業青年会に改称

3 京都市左京区岡崎成勝寺町九―二京都市伝統産業会館内　〒六〇六
TEL〇七五―七六一―八四〇二

4 谷口主嘉

5 会長一名、副会長三名、直前会長一名、監査役二名、相談役二名、アドバイザー三名、第一～四ブロック長一名、事業・振興・交流・財務・広報・総務・拡大各委員長および副委員長

6 会費収入により運営。

7 二六単位青年会六一三名

8 京都の伝統産業に携わる青年会で、各青年会組織をそれぞれ一単位として、全体を四つのブロックに分割している。

9 年会費…基本会費として一単位青年会二万五千円と単位青年会構成員一名につき千二百円の合計。

10 伝産振興に関する事業…全国青年伝統工芸展、府市民を対象とした伝統産業教室（くみひも、竹工芸など）、新商品の開発発表ほか。
会員の交流に関する事業…見学会、親睦会等の開催。
会員の研修に関する事業…長期技術者養成講座として約六ケ月単位で日本画、油絵、竹工芸等の講座の開催、講演会、国内海外研修の実施。

11 昭和三八年九月　伝統産業青年部懇談会（二二団体一〇五三名）として発足
〃　三九年六月　伝統産業青年部懇談会会則制定
〃　四〇年六月　創立総会（初代会長前原昭爾）

12 「手づくりの碑」（一〇周年記念誌）、「技に生きる」（一五周年記念誌）、「クラフトピア京都」（二〇周年記念誌として、京都のさまざまな伝産事業所、小売店などを調査、紹介）、「全国伝統産業青年会調査資料」（第一回から三回までの全国青年伝統工芸展の出品者約五〇〇名を対象に、全国の青年会の実態調査と今後の工芸展の方向のまとめ）
「伝統」（会員向け機関紙として、年間に数回発行し、伝青の動きや各単位青年会のニュースなどを広報）

京都インテリア産業協会

1 本会は、京都に伝承されてきたさまざまな工芸技術を背景に、異った素材ジャンルの角度から、現代のインテリア空間づくりに携っている各社によって構成し、インテリアに対する専門的知識や情報交換等の横のつながりを通して、よりよい未来の建築空間を指向することを目的とする。

2 昭和四三年（一九六八）八月二六日　創立

3 京都市左京区岡崎成勝寺町九―二京都市伝統産業会館内　〒六〇六
ＴＥＬ〇七五―七七一―五一八〇
ＦＡＸ〇七五―七七一―五〇四〇

4 川島春雄

5 会長一名、副会長三名、理事六名、監事二名

6 会費収入、事業収入により運営。

7 二八社（染織一一社、壁装四社、家具・装飾三社、金属四社、ガラス一社、デザイン五社）

9 年会費…八万四千円

10 京都の伝統産業の歴史を背景に、布・紙・木・金属・ガラスなど異った素材の加工技術を業とする会員各社が、インテリアという一点に結集し、現代的な住空間を創造するため異ったジャンルの世界からの物の見方を重ね合わせ、異った次元から物を考えることにより、今までにない発想を生み出している。会員各社相互の間における情報交換や協同製作活動などを通して、新しい時代のニーズに即応する商品を企画・開発し、外に向けては建築各業界への新しいインテリアのあり方の提案や今後の業界についての情報収集などを「ＫＩＳ京都インテリアショー」の実施やＰＲカタログの配布等によりアプローチしている。

11
昭和四二年（一九六七）十月　京都市経済局より、東京松屋において京都インテリアショーの開催提案
〃　四三年（一九六八）三月　京都インテリアショー（東京松屋）
八月　創立
〃　四四年（一九六九）三月　第一回京都インテリアショー（大阪朝日文化ホール、以後継続実施）
〃　四八年（一九七三）二月　国際総合インテリア展
〃　四九年（一九七四）三月　ジャパン・ショップショーに出展
〃　五〇年（一九七五）二月　ユーロショップに出展（西独・デュッセルドルフ）
四月　常設展示場を京信河原町ビル四階に「京都新工芸サロン」として開設
〃　五一年（一九七六）十一月　京都市伝統産業会館竣工記念として「京都新工芸ショー」を開催
〃　五二年（一九七七）二月　「明日にはばたけ伝統産業」発行
〃　六一年（一九八六）三月　京都市新商品化事業の委託を受け、インテリアショー開催（東京・銀座シグナスホール）

12 会員紹介誌「ザ・インテリア」（関係機関・業界に配布）

(社)京都デザイン協会

KYOTO DESIGN ASSOCIATION

1 本協会は、昭和四十二年五月「二十一世紀への新しい波を京都から」を設立主旨として、京都にデザインの基盤を置く各ジャンル（インテリア・グラフィック・コスチューム・テキスタイル・ディスプレイ・クラフト・染色・建築など）の第一線で活躍するデザイナー、およびデザイン団体を結集し、スタートした。以来、二十年余にわたり我々をとりまく社会生活におけるあらゆるデザインの問題を提起し、現在から未来に向かっての解明すべき人類共通のテーマに取り組み、新しい時代のパイロットとしての自覚のもとに運動の展開を行っている。この運動を通して「デザイン都市・京都」の確立を図るとともに、デザイン京都の優位性をさらに内外に高め、京都の産業振興に資すること、並びに我が国デザイン界の向上発展に寄与することを目的として、運動を力強く展開している。

2 昭和四二年（一九六七）五月　京都デザイン協議会設立
〃　五四年（一九七九）四月　京都デザイン協会に改称
〃　五六年（一九八一）一一月　社団法人許可

3 京都市東山区祇園町北側二七五番地ＡＢＬ三階　〒六〇五
ＴＥＬ〇七五－五四一－〇二三九
ＦＡＸ〇七五－五二五－〇二九四

4 柴田献一

5 理事長一名、副理事長二名、常務理事四名、財務理事一名、理事一二名、監事二名

6 会費収入と受託、協力、プロモーション事業による諸収入で運営。

7 一四九名（社）（正会員七八名・特別会員九名・学術会員四名・準会員四名・会友会員二名・賛助会員四五社・特別賛助会員七社）

8 正会員……十年以上のデザイン実務経験を有し、その実務に従事している者、および、その職域の管理者。
特別会員…正会員のうち特に功労があり永年デザイン界に貢献した者。
学術会員…デザインに関する学術、ならびに有識経験者。
準会員……五年以上、十年未満のデザイン実務経験を有し、その実務に従事している者（入会後、経験年数が十年に達した者は、理事会の承認を得て正会員になることができる）。
会友会員…会員の中から理事会の推挙により会友とすることができる。

9 入会金……正会員三万円　学術会員五千円　準会員五千円
年会費……正会員三万円　学術会員一万二千円　準会員一万二千円
賛助会員三万円　特別賛助会員十万円

10 主催共催事業…京都デザインフェア、京都デザイン展、京都デザイン会議、関連団体連携事業ほか。
受託協力事業…京都ファッション市民大学、京都デザインフォーラム、京阪神ファッションマンス、行政および各種団体への提言と協力。
指導事業…地場産業振興のためのセミナーおよびデザイン指導。
自主事業…デザインに関する調査および研究・教育・啓蒙、京都デザイン賞の制定と表彰、ＫＤＡ定例研究会、サロンほか。

12 「ＫＤＡニュース」「ＴＨＥ　ＭＡＲＫＳ　ＩＮ　ＫＹＯＴＯ」ほか。

京都室内装備設計士協会

1 本会は、会員の親睦を図り、室内装備の設計・監理に関連する法規、技術等の研究練磨により、会員相互の向上を図り社会に貢献することを目的としている。また、連合体として社団法人日本室内装備設計技術協会（SSS）の京都支部にあたる。

（社）日本室内装備設計技術協会は、インテリア設計士（室内装備設計士）の資格検定を中心に、インテリア空間、また、それに含まれる構成要素の計画・設計・施工・製作・監理などの技術の向上を図ることにより、室内における住生活の改善向上に寄与することを目的とする。

2 昭和三二年（一九五七）六月　創立
〃　四二年（一九六七）十二月　社団法人許可・設立

3 本部　大阪市東区内本町橋詰町三〇―一本町橋ビル内　〒五四〇
TEL〇六―九四二―三六七六

京都室内装備設計士協会　京都市右京区太秦下角田町五宮崎木材株式会社内
TEL〇七五―八六一―一五八五
FAX〇七五―八八二―六九二六

4 野口茂

5 会長一名、副会長二名、理事十名

6 会費収入により運営。

7 八八名

8 正会員、準会員、特別会員、賛助会員により構成。
正・準会員の入会資格は、京都府下において家具、室内装備、店舗等の設計または、関連業務に携る者。

9 入会金…一万円
年会費…正会員一万五千円　準会員一万円

10 研修会、見学会その他本会の目的達成に必要な事業。
本部では、昭和四十八年から毎年一回二日間を原則として、インテリアならびに関連産業に関する技術・情報の現況・展望などをテーマに「インテリア研修会」を開催。また、昭和三十五年から「全国家具デザインコンクール」を実施してきたが、家具のデザインは年々よくなり高水準に達し初期の目的を達成したので、現在は行っていない。
資格授与として、インテリア設計士（室内装備設計士）一・二級を与える。

11 昭和三二年（一九五七）六月　創立
〃　三三年（一九五八）十月　第一回インテリア設計士資格認定試験実施
〃　三六年（一九六一）二月　インテリア設計士資格認定を検定試験に改め、第一回を実施
〃　四二年（一九六七）十二月　通産省の社団法人許可・設立
〃　五二年（一九七七）六月　社団法人許可十周年記念式典開催

12 機関誌「SSS」、ミニ情報誌「SSS　JOHO」（本部で発行）

(協)京都クラフトセンター

KYOTO CRAFT CENTER

1 本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な協同事業を行うとともに、現代社会の欲求する人間性豊かなクラフト製品の創出に努め、あわせてその市場の積極的開発を図り、組合員の自主的な経済活動を促進し、もって京都クラフト産業の発展を喫することを目的とする。

2 昭和三八年（一九六三）十二月一日　京都市クラフトセンター設立
〃　四七年（一九七二）十二月一九日　協同組合認可

3 京都市東山区祇園町北側二七五番地　〒六〇五
TEL〇七五－五六一－九六六〇
FAX〇七五－五六一－三〇〇二

4 南澤弘

5 理事長一名、副理事長三名、専務理事一名、理事十五名、監事二名

6 会費収入、賃料負担金収入、販売手数料収入などにより運営。

7 一四一名（社）（陶磁四四、木漆一一、人形三、金工一五、竹工四、ファッション一、染織二六、レザー四、ガラス五、紙工七、インテリア二、バラエティ七、ジュエリー四、香一、版画三、アートフラワー一、筆墨一、図書二）

8 京都クラフトコンペの入選者、もしくはこれに準ずる者で、理事の推薦を要する。

9 月会費…四千円、六千円、八千円、一万円

10 京都クラフトセンターの主たる事業の一つとして、二十余年にわたって京都市と相携えて、京都を中心にクラフトマンに活躍の場を提供し、クラフトの仕事の発展に寄与してきた選定事業（京都クラフト展）があります。これは、わが国クラフト運動の先駆的役割を果たすものであり、日本クラフトフェアや世界クラフト会議などにおける当センターの活躍は多大であると自負しています。

クラフトとは、翻訳を必要としない人類共通の言語であり、それがアートを目指そうが、ホビー指向しようが、産業と結びつこうが、人間が手と頭で創り出すことに何ら変わりありません。

昨年秋に開催した第一回京都クラフトコンペインターナショナルは、従来の地域的なコンペを世界全域に拡大発展したもので、十三ケ国九〇〇点の応募があり、デザイン、技術、素材の良いものは古今東西を通じて優秀であることを実感しました。

クラフトが今日の文明を最も象徴的に表現し、人類の最も文化的で、根源的な仕事である限り、このコンペが世界のクラフトマンの交流を進め、それぞれのクラフトマンの仕事の発展に役立つものと確信いたします。

11 昭和三十八年に京都市によって設立され（その当時はわが国で唯一の公立のクラフトセンターであった）、その後昭和四十七年に現在の協同組合京都クラフトに運営が委託された。五十六年四月に現在地の祇園に移転している。

12 「クラフトニュース」、「クラフトファミリー」（いずれも年二～三回発行）

京都建築設計監理協会

KYOTO PROFESSIONAL ARCHITECTS ASSOCIATION

1 本会は、建築設計監理を専業とする建築士事務所の団体で、建築設計監理業務の進歩改善と建築設計事務所の健全な発展を図り、もって建築文化の向上と社会公共の福祉増進に寄与する。

2 昭和五〇年（一九七五）十一月一五日　設立

3 京都市上京区椹木町通り丸太町下ル東土御門町三四三―一　〒六〇二
TEL〇七五―二五六―〇五五三

4 長戸幸雄

5 会長一名、副会長二名、理事一一名、監事三名

6 会費収入により運営。

7 正会員六〇事務所　賛助会員三〇社

8 建築設計監理を専業とする建築事務所および、建築に関連する芸術・技術・資材等の事業者で構成。
正会員……京都府内に所在する専業建築設計事務所。
協力会員…建築に関する技術・芸術等の個人・法人。
賛助会員…会の趣旨に賛同する個人・法人・団体。

9 年会費……正会員三万円プラス所員数負担費一人当り三千五百円
協力会員三万円　賛助会員五万円

10 会員の親睦、交流を基礎に、大きく三つの分野で活動を展開している。
・建築設計監理業務の水準を高める技能・技術の研修研究事業……新耐震構造・CADの研修、標準特記仕様書の作成、六十一年度にはMITサマーセミナーメンバーとの交流・交歓を行う。
・会員事務所の経営を強めるための事業……設計コンペ・建設省告示第一二〇六号の採用など、官公庁との業務発注の協議、経営計画についての学習。本会と密接な関係にある「京都府建築家協同組合」は、業務報酬の適正化等のために活動している。
・対外的に建築家の職能をアピールする事業……過去二回、京都新聞で「意見広告」を実施。きょうと増改築フェアへの参加。「京都市美観風致賞」運営に参加。同賞創設以来毎回本会会員が受賞。建築家の職能倫理と社会的責務についての公開シンポジウム。

11 建築家の職能団体としては、七十余年の歴史をもつ(社)日本建築家協会（JAA）があり、関西支部として大阪にあった。本会の設立で、京都において設計監理を専業とする建築家の拠所ができた。全国の単位会が日本建築設計監理協会連合会を組織していたが、昭和六十年十月、京都において創立十周年記念大会を開催。ここで提案された「建築界再編」は本年五月十一日の、新日本建築家協会（JIA）設立と両団体の解散をもって歴史的なエポックを画した。現在、建築士法改正が建築審議会で論議され、建築家の職能確立へ向かって大きく進んでいる。
今後、個人加入のJIAと、組織加入のKSK（京都建築設計監理協会）は、協同して建築家のプロフェッションを目指す団体として展望を拓いて行く。

12 機関誌「KSK会報」（年六回刊）。現在六十七号まで発行しており、会員の他、府下市町の建築担当課にも配布している。

(社)日本グラフィックデザイナー協会京都地区

JAPAN GRAPHIC DESIGNERS ASSOCIATION INC

1 日本全国および海外に会員を有するグラフィックデザイナーの職能団体で、人々が、よりよく生き、心や暮らしを豊かにするために、グラフィックデザイナーが何をすればよいかを考え、答えを探し、問題解決に向けて相互に協力および実行していくことを目的としている。デザイナー自身が自らの役割を自覚し、またグラフィックデザインに対する認識を高めることによって、デザイナーの社会的地位を向上させることも必要で、こうしたことは日本国内だけの課題ではなく、国際的なテーマでもあり、当協会は国際グラフィック団体協議会（ICOGRADA）に加盟し、国際的な視野に立ち交流を深めながら、以上の目的に向かって地道な活動を行っている。

2 昭和五三年（一九七八）八月二六日　設立
〃　五九年（一九八四）四月　社団法人許可

3 本部　東京都港区南青山二―一一―一四第一直樹ビル五階　〒一〇七
TEL〇三―四〇四―二五五七
FAX〇三―四〇四―二五五四
京都連絡所　京都市上京区西洞院通下立売下ルパルアート(株)内
〒六〇二
TEL〇七五―二三一―五四七九
FAX〇七五―二二一―七八九六

4 亀倉雄策

5 会長一名、副理事長二名、理事二二名
京都地区代表幹事・田積司朗、幹事七名、監査委員二名

6 会費収入により運営。

7 正会員一五〇〇名（京都会員七〇名）・賛助会員八七社

8 グラフィックデザイナー、グラフィックデザイン部門教育者
正会員……グラフィックデザインに関し二年以上実務として従事している者。グラフィックデザインの教育に二年以上携っている者。その他前記に規定する資格と同等の資格を有する者。
賛助会員…グラフィックデザインに関心を有する法人、団体および個人で賛助会費を負担するもの。

9 入会金一万円　年会費三万六千円

10 国内外において、グラフィックデザインの認識を高めるために、展覧会やシンポジウム、セミナーを開催。また「年鑑日本のグラフィックデザイン」の発行や、複雑化するグラフィックデザインの制作に対応した制作料金の基準づくり、および著作権確立といった創作保全、国際交流、グラフィックデザイナーの育成、調査研究、関係諸機関協力など、多岐にわたる公益事業を展開している。
JAGDA京都地区では、平安建都千二百年に向けて、ITF'87（国際テキスタイルデザインフェア・世界織物会議）や京都国体などの事業に参加協力している。内容として、ポスターやパンフレットなどの広報活動を始め、イベント提案、各種プロモーションツールなどの企画制作を行っている。

12 「JAGDA」（会報）「日本グラフィックデザイナー協会会員作品集」「年鑑日本のグラフィックデザイン」（昭和五六年より毎年発刊）「ニュースJAGDA京都」（京都地区編集発行）ほか。

日本庭園文化協会

1 京都は、日本庭園史上多くの作品や作家を生みだしており、広く世界的視野に立って新しい時代の風潮をつくる背景にめぐまれている。京都を無台にして日本庭園を中座にすえた文化的拠点をつくることは今日の時代的背景や立地性から最もふさわしいものであると考えられる。本協会は、日本庭園を単なる研究の対象とするものではなく、日本庭園が確立されるまでの先人の努力の軌跡をたどりながらも、この蓄積をあたらしく創造的に発展させることを主要なねらいとしている。活動の第一のねらいは、現代社会と現代人の精神性を象徴するにふさわしい、新しい日本庭園創造の諸条件を整え、会員の交流を深めること。第二は、先人の叡知と技術を結集し、時代毎の思潮の反映であった数々の名庭に学び、これらの成果を継承すること。第三は、こういった活動を通して、日本文化の形成、国際交流に寄与することである。以上、過去から未来に至る流れを、本協会は一つの思潮にまとめあげ、文化的活動の一貫としてあるいは世界へ飛躍する「いしずえ」として今日おかれている日本庭園を位置づけることを目的とする。

2 昭和五六年（一九八一）四月一日　設立

3 京都市中京区寺町通竹屋町上ル下御霊前町六五一－五　〒六〇四
TEL〇七五－二五六－二五七五
FAX〇七五－二五六－一三八〇

4 吉村元男

5 会長一名、代表顧問八名

9 入会金…個人会員四千円　法人会員（一口）一万円
年会費…個人会員六千円　法人会員（一口）二万円

10
- 日本庭園に関する現況の調査、解折および既存資料の収集、管理。
- 日本庭園の維持管理および埋蔵文化財の発掘保存、復元整理作業。
- 創作活動を通して、新たな日本庭園の研究を行う。
- 日本庭園技術を日本庭園のみにとどめず、町づくりや自然保護、文化財保護計画等にも積極的に活用させてゆく方途を探り、日本庭園の新しい姿を確立させる。
- 以上の活動を促進させるため、研究者、学者、技術者等の結集をはかり、伝統的技術の継承、育成、日本庭園の重要性の広報等、日本庭園をとりまく社会的基盤を確立する努力を行う。
- 研究会、講演会、講習会等の開催および出版事業による調査、研究、創作等の成果の公開、研修に関する事業。
- 文化交流の一貫として、海外への発展を計るとともに、海外からの研究者の受入れを行う。
- 目的に関連して行う国、地方公共団体、企業、個人等からの調査、研究、計画、施行、管理の受託事業。
- 日本庭園に関する既存資料の収集、管理等の目的に供する資料館の建設。
- その他、本協会の目的を達成するために必要とされる事業。

12 季刊「庭園文化」

㈳京都国際工芸センター

KYOTO INTERNATIONAL CRAFTS CENTER

1 日本の工芸の中心である京都において、今日の歴史的、文化的価値を継承し、現代社会における生活工芸の豊かな提案を行い、同時に国際的視野に立った新しい工芸文化のあり方を構想し、京都府地域産業振興の一端としての府下工芸産業の指導育成を通じ、広く国民生活の健全な発展に寄与することを目的とする。

2 昭和五七年（一九八二）二月一二日　設立
〃　九月二九日　社団法人許可

3 京都市左京区岡崎成勝寺町九－二京都市伝統産業会館内　〒六〇六
ＴＥＬ〇七五－七七一－二〇五〇
ＦＡＸ〇七五－七七一－五〇四〇

4 川島春雄

5 理事長一名、副理事長三名、常務理事六名、理事七名、監事二名
名誉会長一名、顧問十名、相談役六名、特別会員四名、

6 会費収入および基本財産運用益等により運営。

7 二〇一名（社）（正会員一一四名・準会員五七名・賛助会員三〇社）

8 正会員……この法人の目的に賛同し工芸産業に携わる個人または法人。
準会員……この法人の目的に賛同し工芸産業に関する業務に従事している者または工芸に関心のある個人。
賛助会員…この法人の目的に賛同しこの法人を援助する個人または法人もしくは団体。

9 入会金……正会員三万円　準会員五千円
年会費……正会員三万六千円　準会員一万二千円　賛助会員一口五万円

10 月例研究会や各展示会等を通じ、会員および広く一般に「工芸」の価値と必然性を指導、育成するとともに、日本各地のさらに世界各国の工芸の振興と共生をはかる情報交流機関を目ざしている。
また、質の高い日本の工芸を守り育て、広く後継者を求め、世界の中での評価を得るため、工芸各界で共通に利用できるデータベース「工芸資料の収集と目録作成」に取り組んでいる。
国内展…京都クラフト展、クラスター展、工芸新世紀展ほか。
国際展…ペーパー・ナウ・イン・ジャパン展、セルジオ・アスティの世界展、英国の現代テキスタイルアート展ほか。
研究会…新素材研究会、工芸ガラス研究会（月例）
運営協力…'83国際紙会議、'84国際伝統工芸博・京都、日本クラフトフェア

11 昭和五十三年（一九七八）九月、世界各国のクラフトマンたちを一堂に集めて「ＷＣＣ世界クラフト会議・京都」が東洋の地で初めて開催され、国家的事業として大成功をおさめた。その成果を単なる一過性のものに終らせるのでなく、さらに発展させていくために工芸関係者をはじめ、産業・行政など各界の人々が集まり「京都国際工芸センター」として結実、昭和五十七年（一九八二）九月二十九日に社団法人許可を得た。

12 機関誌「ザ・クラフト」（第七号まで刊行。会員、関係機関・団体、関係有識者等に配布。全国書店にても販売）会報「ＩＣＣニュース」（会員および関係機関・団体、関係有識者等に毎月配布）

●インフォメーション

平安建都千二百年記念事業

京都は、千年以上もの間、国の政治、経済、文化の中心として発展し、国際的文化をもつ古都を築きあげて参りました。しかし一方で現代の京都は、歴史の中に埋没し、過去の栄光が失われるという状況も現われつつあります。

こういう中で、七年後の昭和六十九年、京都は、まちづくりが始められてから千二百年目の年を迎えることとなります。この歴史的な節目に当たり、現代京都の危機的な状況をしっかりと見据え、その脱皮と創造的な再生を図る平安建都千二百年記念事業を展開する必要があるという考えが、京都府、京都市、経済界などで高まって参りました。

こうして、二十一世紀に向けて新しいまちづくり等の事業を推進する気運を促し、誘導することを目的とした財団法人平安建都千二百年記念協会が昭和六十年七月に設立されました。記念協会は、設立以来、国際都市「京都」の創生に向け主に次のような事業を行って参ったところです。

①協会ニュースの発行
②シンポジウムの開催
③テーマ「伝統と創生」キャッチフレーズ「未来を創る世界の京都へ」シンボルマークの決定
④京都1200四条ひろば'86、京都1200ヤングフェスティバル'86の実施
⑤啓発パネル展の実施など

また、今後も記念事業を一層推進する事業を実施するため行催事等の検討を行うほか、関連する事業に対し積極的に共催、後援等を行っています。

京都の活性化に向けて、皆様の一層のご理解ご協力をお願いします。

●平安建都千二百年記念事業「五つの基本テーマ」
一、新しいまちづくり
二、交通、情報通信網の整備
三、産業の振興
四、生活環境と地域社会の整備
五、文化の継承・発展

●記念事業　・二十一世紀洛南新都市の建設・岡崎公園の文化的再整備・市民劇場の建設・京都文化博物館の建設・国際交流センターの建設・京都経済センターの建設

●関連事業　・伝統行事、伝統芸能、文化財の保存、育成の強化・文化、学術、研究都市の建設推進・京都駅の改築と京都駅、二条駅周辺の再開発・世界人権問題研究センターの設立・総合見本市会館の建設・日本文化研究所の創設

●特別記念事業　・記念式典の開催・博覧会の開催・フェスティバル、カーニバル、シンポジウム等の開催

京都1200
伝統と創生

世界歴史都市会議

京都市は、今秋十一月十八日から四日間、国立京都国際会館で「世界歴史都市会議」を開催いたします。

七年後に建都千二百年を迎えますが広く世界を見ても、永い歴史を有しつつ現在なお活発な都市の営みを続けている都市が数多くあります。しかし、近年、これらの歴史都市は、急激な社会変化によって、さまざまな問題を抱えるに至っております。

そこで、京都市は、世界の三十五の歴史都市の市長に呼びかけ、世界でも初めての試みの「世界歴史都市会議」を開催することとなりました。

この「会議」は、「二十一世紀における歴史都市 ― 伝統と創生」を総合テーマに、都市計画、文化遺産、都市産業等、共通する課題について、各都市が各々の経験と知恵を交流させ、問題解決の糸口を探求しようとするものであります。会議の成果は「京都宣言」として、全世界にアピールされますが、京都市のみならず、世界の歴史都市にとってきわめて重要な会議であります。

また、「会議」を市民に開かれたものにするため、近く傍聴者を募集いたしますが、皆様方にもぜひ参加していただきたいと考えております。

なお、「会議」を盛り上げるため、各界の御協力を得て、世界歴史都市博や世界歴史都市ランド等のイベントが、市内一円で開催されます。

世界歴史都市会議は、単なる国際交流事業に止まらず、京都市の未来ビジョンづくりに大きく貢献するとともに、京都が世界に向かって飛翔する飛躍台でもあります。

WHIC KYOTO '87
World Conference of Historical Cities
世界歴史都市会議

世界歴史都市博

世界歴史都市博は、今秋開催される「世界歴史都市会議」（主催・京都市）を盛り上げ、府民・市民レベルでの国際交流を深めるべく、十一月八日から二十九日まで開催するものです。

海外歴史都市三十五都市と、京都の友好姉妹都市二十都市が一堂に集り、都市の「伝統と創生」をテーマに、会期中、有意義で楽しいお祭りを京都府総合見本市会館およびその周辺にくり広げます。

主な海外出展参加都市は、「水との闘い、水への愛情」をテーマとするアムステルダム。大聖堂の塔の先端部（高さ九m余）を展示するケルン。楽聖直筆の楽譜を展示するハンブルグ。香り豊かなコーヒーと、女性十二名編成の弦楽奏が楽しめるウィーン。世界初のコンピューターと最新のコンピューターを絞べるフィラデルフィアのパビリオン等々。これら展示物が、大展示場の中に、所狭しと並びます。

又、屋外では、北山杉丸太を使ったテントが並び、世界各国の食べ物や工芸品、土産品などの出店で、食事や買物が楽しめます。テントゾーンの中央には、お祭り広場として屋外ステージが設けられ、会期中、毎日夜八時まで、色々と楽しいイベントが、ステージの上をかざります。

この他、三階のシアターや五階のラウンジでは、各都市の市長を交えたレセプションや記念パーティなど、数多くの催しが多彩に催されます。見る・聞く・食べる・唄う……誰もが気軽に参加出来る楽しいお祭りとして、多数の方々のご来場をお待ちしています。

前売入場券は、大人一二〇〇円、中高生八〇〇円、小学生四〇〇円で、日本交通公社各支店で好評発売中です。

’87国際テキスタイルデザインフェア・世界織物会議

今年、十一月始め、京都において国際的なテキスタイルのイベントが開催されます。

織物の感性―新世紀への提言―をテーマに世界の染織関係者に参加を呼びかけて行われます。現代から未来の文明の中で染織の座標を見つめなおすとともに、現代世界の染織の実情を相互に認識し、未来における人間と染織による文明のイメージを創り出すことを目的にしています。

このイベントは、テキスタイルのフェアと会議で構成され、京都府、京都市、京都商工会議所、西陣織工業組合、京都デザイン関連団体協議会の共催で通商産業省、外務省などの後援を得て開催されます。

●’87国際テキスタイルデザインフェア

・会期　昭和六十二年十一月六日(金)～十二日(木)午前十時～午後五時

・会場　国立京都国際会館イベントホールほか

・内容　国際テキスタイルコンペティション’87京都展、ロングセラー・オン・ITF、日本の染織の流れ展、世界の染織産地展ほか

●世界織物会議

・会期　昭和六十二年十一月六日(金)～八日(日)

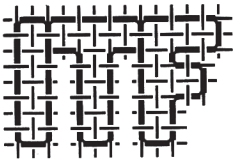
・会場　国立京都国際会館大会議場ほか

・内容　六日　記念講演、基調講演、特別講演

　　七日　分科会

お問い合せは、開催委員会事務局へ（京都市上京区堀川通今出川南入ル西陣織会館内）

TEL〇七五―四五一―〇〇三三



京都国体

昭和二十一年、京都を中心に誕生した国民体育大会は、来年再びこの地から二巡目国体として新しいスタートをきります。

国体は、単に競技結果を競うだけでなく、大会を通じ広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進を図ると同時に、地域の町づくりや文化の振興をも目的として開催されるものです。第四十三回国民体育大会―京都国体―も「新しい歴史に向かって走ろう」のスローガンのもと競技会場などの施設整備や全国の選手をあたたかく迎えるための町づくり、人づくりなど国体成功に向けての準備が着々と進められています。

また、町づくり、人づくりとともに見逃せないのが、国体開催のもうひとつの大きな柱である地方文化の振興です。とりわけ、京都は古くから日本の文化の中心ですが、活力ある明日の京都づくりのためには、この恵まれた土壌の上にさらに新しい文化を開花させる努力が求められます。文化は、多くの人たちの豊かな精神的な営みにより生み出されるもの。府民総参加の京都国体は、新しい京都文化の創造にまたとない機会です。わたしたちみんなの英知を結集し、京都国体を成功させましょう。

●京都国体炬火台デザイン募集

第四十三回国民体育大会京都府実行委員会では新しい京都文化の創造をという願いを込めて炬火台のデザインを公募します。「炬火」とはオリンピックの聖火に当たり、京都国体のシンボルとなるものです。締切りは、六十二年七月末日。詳しくは同実行委員会(京都府国体局内)

TEL〇七五―二五五―三一四三まで。

第七回京都デザイン会議報告

テーマ…建都千二百年へ
　――スーパーデザイニング'87
とき……昭和六十二年三月二十九日(日)
ところ…日図デザイン博物館
基調講演「建都千二百年記念事業構想を語る」
　(財)平安建都千二百年記念協会
　　理事長　木下　稔
「京都のデザイン衆とその未来運動」
　　主催者代表　柴田献一
分科会①インターナショナル京都――デザインと国際性
②京都の着だおれ
③ものづくりから、ものひろめへ
④国際・京都・建都千二百年…とは
⑤景観都市の色彩を考える
⑥京都発・一九九四年――京都は世界に発信できるか？
⑦国際性とは何か
⑧グラフィックのチカラ
⑨二条城に天守閣をみんなでつくろう

京都のデザイン関連団体の力を結集して、新しい価値の認識とその方法の再検討を行うとともに、「デザイン」という概念が狭い専門領域の職能ではなく、生活者個人から政治・経済にかかわる全ての社会的な行為であることを目的として、広範な分野の人々の参画を得て意議ある討論を行うため、昭和五十六年に第一回を、そして本年、第七回京都デザイン会議を京デ協主催により開催。

同会議は、今西慧実行委員長の司会により開会し、(財)平安建都千二百年記念協会・木下稔理事長の基調講演によって、参加者全員が「建都千二百年への京都の伝統と創生」についてコンセンサスを得ることができた。

つづいて主催者代表・柴田献一京デ協議長が、「ヒト・モノ・コト」の連環の中で、デザインとは「コトからの発想である」ことを強調。参加者はコトとヒトの関りあいを求めて、九分科会議へと進んだ。

九分科会、平均二十名の小グループでのトーク・セッションこそが、今回のジャンルを超えたスーパー・デザイニング会議の狙いでもあり、この試みは概ね成功した。最終のパーティで九分科会の報告が行われ、楽しいコミュニケーション・アワーを現出した。

このように、デザイナー、および一般の方々との人的交流を通じて、ささやかでも具体的な活動が展開しはじめたことにより、新たな希望の芽が生れたといえる。

建都千二百年に向かって
美しいまちで美しいものをつくる
発行・京都デザイン関連団体協議会
　昭和六十二年三月三十一日
編集・京都デザイン関連団体協議会出版委員会
　熊谷　實（日図）
　塩山秀子（KDK）
　梅原フク（NDK）
　森田佳男（伝青）
　本郷大田子（KIS）
　今西　慧（KDA）
　澤野周二（KSS）
　籏持　宏（KCC）
　松田　緑（KSK）
　森野純亘（JAGDA）
　吉村元男（庭園）
　岸本康志（ICC）
事務局・京都市東山区祇園町北側二七五番地
　ABL三階　(社)京都デザイン協会内
　TEL〇七五―五四一―〇二三九
　FAX〇七五―五二五―〇二九四
印刷製本・(株)光陽
定価・五〇〇円

京デ協

京都デザイン関連団体協議会

事務局/社団法人京都デザイン協会 内
〒605 京都市東山区祇園町北側 ABL3階
PHONE:075-541-0239 FAX:075-525-0294